

挑む!

介護エンターテイナー

石田 竜生たつきさん(34)



笑って動いて生きがいお助け

カツラをさっとかぶり88歳のおばあちゃんに変身！ 鉄板ネタで心をつかむと、「みなさんと体操をしに来ました」。作業療法士として大阪で働きながら、全国の介護現場を飛び回って笑いと元気を広げている。

子どもの頃から夢はお笑い芸人。23歳で地元富山を離れ、大阪のNSC（吉本興業の養成所）に入った。卒業後もアマで活動が続けるが芽は出ない。デイケア施設でのパートの仕事も、どちらも中途半端だった。

医療福祉大で学び作業療法士の資格を取得した後、芸人をめざし富山から大阪へ。14年から介護エンターテイナーを名乗り、動画配信にも力を入れる。

転機は30歳ごろ。日々接する高齢者の中には、表情が乏しく「やることがない」と話す人もいた。芸人として客の目を輝かせようともがいてきた経験を生かし、何かできないか。「介護エンターテイナー」と名乗り始めた。

高齢者施設へボランティアに行き、笑いと体操を組み合わせた「舞台」を披露。SNSで発信すると次々依頼が来て、訪れた施設は延べ100カ所を超えた。レクリエーションのマンネリ化に悩む施設は多く、「コツを教えろ」と講師の仕事も舞い込むように。教えるのは笑いのネタではない。高齢者のやる気をどう引き出すか、そのパリエーションを増やすヒントである。

年を取ると心身が動きづらくなるが、「心が動けば体が動く」。笑いと生きがいは、人生のラストにも必要だ。

文・十河朋子 写真・小林一茂

記者から

漫才の流れをなぞりつつ伝えるレクの手法に説得力あり。現場を元気にすると引っ張りだこだ。